

サピエを活用しています

サピエが実現した 視覚障害者が本を選べる環境 岡山県立図書館 島津屋護さん(司書)

当館では2011年にサピエを導入しました。サービス開始時にはチラシを作り、岡山県内の図書館や視覚障害者センター、病院や特別支援学校などへのアナウンスに力を入れ、新聞紙上でも案内を行いました。この結果、導入前は100冊程度しかなかったデジターの貸し出し件数が2013年には約6000冊と飛躍的に増加しました。潜在ニーズがあったのだと思います。再生機器を持っていない利用者が自分の機器を購入するまでの間、当館で用意したプレクストークなどの再生機器も40台ほどを貸し出しています。

当館では録音図書の製作はしておらず点字図書館から借りる一方なのですが、朗読ボランティア養成などに協力しています。

サピエを活用する一番のメリットは利用者の方が本を選べる環境ができたことです。途中で失明された方が「長い間読書をあきらめていたが本を読む楽しさを取り戻せた」とおっしゃるのを聞くと司書としてのやりがいを感じます。

視覚障害者と図書館をつなぐ 本のソムリエに 千葉県立西部図書館 松井進さん

千葉県には3つの県立図書館があり、障害者サービスの登録者数は3館合同で、400~500名です。当館がサピエ(当時は「ないぶネット」)に加入したのは10年ほど前です。利用者さんの中には自分でパソコンを利用してサピエを検索しオンラインリクエストをする方も、曖昧な書籍の情報をもとに電話で本の選択について相談してくる方もいます。最近では、点字よりも音声データのリクエストが増えています。デジターがスマートフォンで読めるようになったことも大きな進歩です。映画に副音声のついたシネマ・デジターや、月刊の文芸誌や週刊誌などの録音雑誌にも人気があります。インターネットを見て話題の情報には常に注意を払っています。ドラマや映画の原作、本屋大賞やミステリー大賞、直木・芥川などの文学賞の情報も目が離せません。

図書館は情報の扉を開く場所。私自身も視覚障害者で本と人をつなぐ仕事をしていますが、自分を、目の悪い方と図書館をつなぐ、「本のソムリエ」だと思っています。

VOICE 利用者の声

デジター図書で 読書三昧の日々です

中村裕子さん(千葉県)



私は以前から本や漫画が好きだったので、中途失明により読書ができなくなったのが一番のショックでした。でも地域の公立図書館を通してサピエの本を電話でリクエストできるようになり本当に幸せです。私が好きな本はダーク・ピット・シリーズやトム・克蘭シーの作品で、時代物では佐伯泰英や平岩弓枝の「はやぶさ新八御用旅」シリーズを借ります。自宅では料理をする時も洗濯物を干す時も一日中聞くと読書をしています。旅行にもSDに入れて携帯型のデジター再生機を持って行くほど読書に親しんでいます。

お問い合わせ

詳しくは電話、メールで下記サピエ事務局へお問い合わせください。

E-MAIL: sapie-jimu@naiiv.net TEL・FAX: 06-6441-1078

特定非営利活動法人

全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協) サピエ事務局

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2

E-MAIL: sapie-jimu@naiiv.net TEL・FAX: 06-6441-1078

www.sapie.or.jp

「サピエ」を活用して 読書が困難な人にも 開かれた図書館に



障害者差別解消法により、公立図書館は読書が困難な人も図書館を利用できるように、合理的配慮*をすることが求められます。

2014年1月、日本は国連の障害者権利条約を批准しました。そして、障害がある人もない人も生きやすい社会を目指して、2016年4月1日から障害者差別解消法が施行されます。

*合理的配慮：障害のある人が日常生活や社会生活を送る上で妨げとなる社会的障壁を取り除くために、過重な負担にならない範囲で提供される必要かつ合理的な条件整備をいいます。

